

臨床薬理

更新日：2021/02/08 16:32:35

開講年度	2021	学期	後期	シバースト°	88170		
学年	1	曜日/時限		単位数	2.0	科目コード	881700
担当教員	柳原 延章						
学部/学科	大学院 修士課程						
備考	必修/選択：選択（CNSコース必修） 授業形態：講義						

授業の目的

薬品が生体に及ぼす影響およびその作用機序について学び、多様な健康問題をもつ対象の特性や病態に応じて使用される薬物の判断根拠、投与後のモニタリング、服薬管理能力の向上のための臨床応用の知識を獲得する。

到達目標

1	薬物療法に関して、基本的知識を身につけることができる。
2	薬物動態学を理解し説明することができる。
3	最新の医薬品情報を適宜収集・確認する習慣を身につける。
4	エビデンスに基づいた薬物治療を理解することができる。
5	看護の分野における薬物管理の実際を理解することができる。

DPとの関連

DP6（CNS）◎

DP7（CNS）○

授業計画

1	臨床薬理学の定義と概念を学習する。 【授業内容】臨床薬理学の基礎 【授業方法】講義 【担当】高橋浩二郎：九州東邦株式会社、管理薬剤師
2	臨床薬物治療学(1)：治療学における臨床薬物動態を学習する。 【授業内容】治療学における臨床薬物動態学 【授業方法】講義 【担当】柳原、九州栄養福祉大学食物栄養学部教授
3	臨床薬物治療学(2)：臨床薬物動態学の理論を学習する。 【授業内容】薬物投与計画、薬物送達システム、薬物代謝酵素及びトランスポーター 【授業方法】講義 【担当】柳原、九州栄養福祉大学食物栄養学部教授
4	薬物治療学各論(1)：循環器疾患治療薬を学習する。 【授業内容】循環器疾患治療薬 【授業方法】講義 【担当】高橋富美：産業医科大学医学部薬理学教授
5	薬物治療学各論(2)：消化器及び呼吸器疾患治療薬を学習する。 【授業内容】消化器及び呼吸器疾患治療薬 【授業方法】講義 【担当】高橋富美：産業医科大学医学部薬理学教授
6	薬物治療学各論(3)：代謝及び内分泌疾患治療薬を学習する。 【授業内容】代謝及び内分泌疾患の治療薬 【授業方法】講義 【担当】高橋富美：産業医科大学医学部薬理学教授
7	薬物作用と薬物動態の基本(1)：生理活性物質、病態や薬物の作用機序を学習する。 【授業内容】生理活性物質、病態や薬物作用メカニズム 【授業方法】講義 【担当】高橋浩二郎：九州東邦株式会社、管理薬剤師
8	薬物作用と薬物動態の基本(2)と処方箋学を学習する。 【授業内容】薬物作用の基礎と処方箋学 【授業方法】講義 【担当】高橋浩二郎：九州東邦株式会社、管理薬剤師
9	薬物治療学各論(4)：精神疾患や腎泌尿器科疾患治療薬を学習する。 【授業内容】精神疾患や腎泌尿器科疾患治療薬 【授業方法】講義 【担当】高橋富美：産業医科大学医学部薬理学教授
10	薬物治療学各論(5)：抗炎症薬、抗リュウマチ薬、鎮痛薬等を学習する。 【授業内容】抗炎症薬、抗リュウマチ薬、鎮痛薬 【授業方法】講義 【担当】高橋富美：産業医科大学医学部薬理学教授

11	臨床薬物治療学(3): 薬物相互作用、薬理遺伝学、時間薬理学を学習する。 【授業内容】薬物相互作用、薬理遺伝学、時間薬理学 【授業方法】講義 【担当】柳原、九州栄養福祉大学食物栄養学部教授
12	臨床薬物治療学(4): 病態時における薬物療法を学習する。 【授業内容】各種病態時における薬物療法 【授業方法】講義 【担当】柳原、九州栄養福祉大学食物栄養学部教授
13	臨床薬物治療学(5): 病態時における臨床薬物療法の実際を自主学習し課題発表をする。 【授業内容】薬物療法の実際 【授業方法】自主学習の結果をプレゼンテーションする。 【担当】柳原、九州栄養福祉大学食物栄養学部教授
14	在宅看護分野における療養者の薬物投与と生活調整、服薬管理 【授業内容】在宅療養者の薬物投与と投与後のモニタリングと生活調整、服薬管理の実際を学ぶ 【授業方法】講義 【担当】
15	クリティカルケア看護分野における患者の薬物投与と生活調整、服薬管理 【授業内容】クリティカルケア看護分野における患者の薬物投与と投与後のモニタリングと生活調整、服薬管理の実際を学ぶ 【授業方法】講義 【担当】

学習方法

授業について、講義およびプレゼンテーション、ディスカッションを通じて理解する。特に、実際の薬物療法をテーマにした課題発表とレポート提出をし、講義と合わせて理解し学習する。

オフィスアワー

yanagin@med.uoeh-u.ac.jp (柳原)

ftakahashi@med.uoeh-u.ac.jp (高橋富美)

t-kojiro@kitakyu-hp.or.jp (高橋浩二郎) までアポイントをとってください。

テキスト

日本臨床薬理学会：臨床薬理学 第4版．東京，医学書院，2017．

参考文献

随時提示する。

評価方法

授業への参加度・プレゼンテーション (20%)、筆記試験 (80%)